

令和3年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

令和3年8月23日
舢倉診療所長 吉田 弥生

令和元年度の舢倉島夏期総合診療は石川県の協力により令和3年8月7日（土）に実施されました。新型コロナウイルス感染症の流行が続く中で開催となりましたが、関係各位のご協力のおかげで開催することができました。あいにくの天候で1日のみの開催となりました。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して専門医の診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。疾病の早期発見から治療につなげることで、生活上の注意点を知ること、島民の生活の質を向上する。

2. 日程

令和3年8月7日（土）午後1時～午後5時の予定だったが、実際には午前11時～午後2時半
8月8日（日）午前9時～正午（悪天候により中止）

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

内科：診察室

各種測定：レントゲン室

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科 小森 貴 医師（小森耳鼻咽喉科医院）
内科 堀田 祐紀 医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
運営、診療補助 吉田 弥生 医師（舢倉診療所）

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

令和3年度はのべ59名、実人数31名の島民が受診した。各科の受診件数を以下に示す。

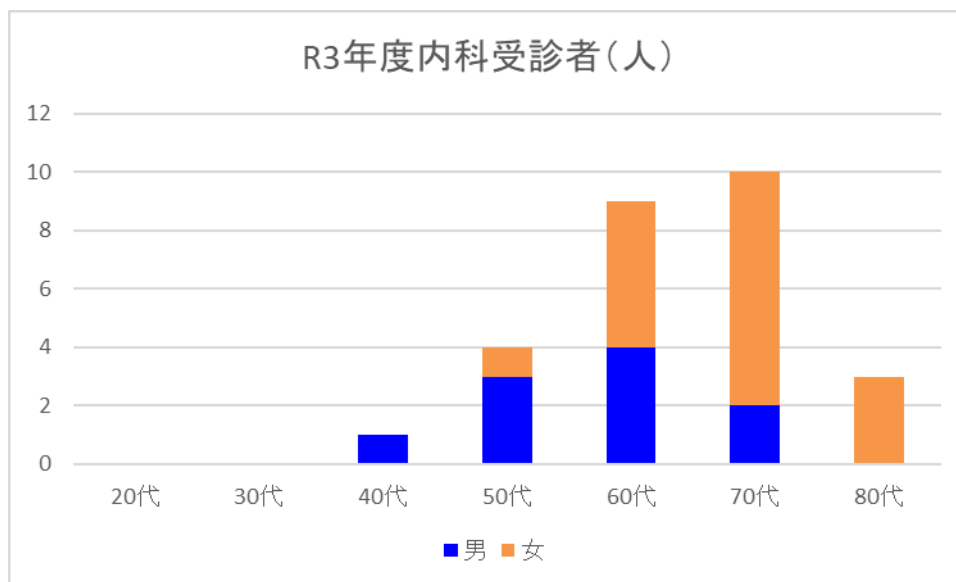
	内科	耳鼻科	眼科	整形外科	特定健診	大腸癌 検診	前立腺癌 検診	のべ人数
令和3年度	27	15	なし	なし	17	なし	なし	59
令和2年度	開催なし							
令和元年度	49	20	なし	10	30	21	15	145
生成30年度	50	24	中止	中止	30	24	19	147
平成29年度	49	13	14	なし	33	26	19	154

全体の傾向としてはのべ受診人数、実人数は共に減少した。受診人数についてもすべての項目で減少しており、増加した項目は認めなかった。のべ受診人数、実人数が共に減少した理由には、今年度は2日目が欠航となり1日のみの開催であったこと、新型コロナウイルス感染症対策のため混雑する健診を避けようとした島民がいたこと、令和2年の開催がなく期間が空き健診受診がおっくうになった島民がいること、1日のみの開催になったことを知らず受診しそびれた島民がいること、島民自体の減少が考えられる。今年度は健診スタッフがそろわず特定健診、大腸癌検診、前立腺癌検診といった輪島市の成人向け検診を同

日に行うことができなかった。特定健診については6月～8月の診療時間に行った。

受診者は減少しているが、一定の人数は受診しており、今後も必要である。また、今年度開催できなかった診療科、がん検診等についても島民からの開催を希望する声が多数聞かれた。以下で各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

<内科>

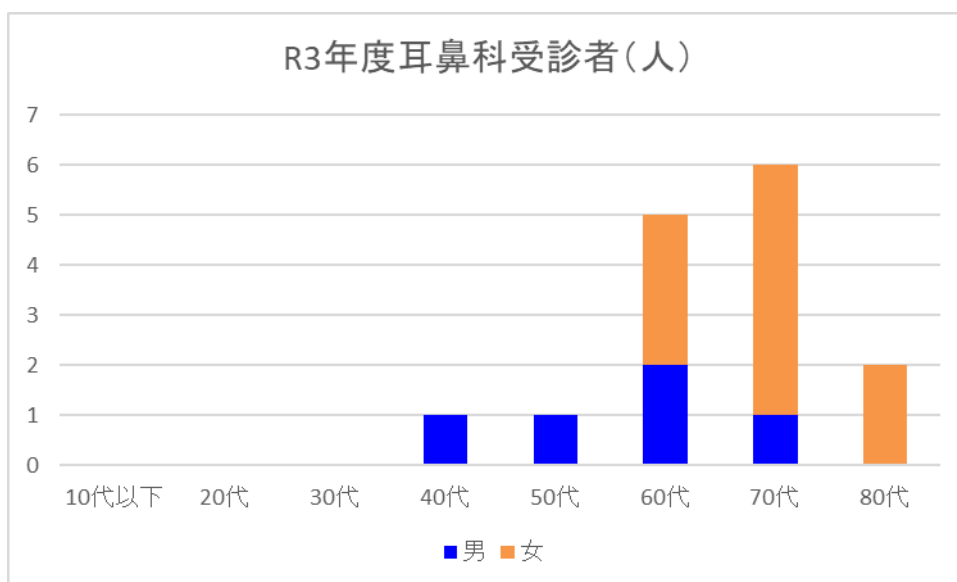


内科は一昨年度同様50歳以上の年代で受診率が高くなっている。今年度の受診患者数は減少した。今年度は1日目のみの開催となり、待ち時間の増加を懸念し受診を控えた患者がみられた。診療開始時間を繰り上げて診察を行ったが、昼休憩もなく定期船の時間ぎりぎりまで診察を行うこととなった。事前に胸部レントゲン写真や心電図を撮影していたが、当日の混雑状況をみて受診を控えた患者もいた。3時間もロビーで診察待ちをしていた患者もいた。待ち時間なく診察を行うためには、2日間で開催し受診時間をばらけさせる工夫が必要であると考えます。

島民は喫煙や飲酒などの生活習慣の乱れが目立ち、若い年代でも健診を行う意義は大きいと考えられる。実際、以前の内科検診で30歳代でも異常を認めた方もいることから、今後若い年代も積極的に健診受診を勧めていくべきと考えます。

一方、島民の高齢化が進んでおり、心疾患の罹患率は増加している。年一回の貴重な機会なので、既往歴や日常診療での会話の中で、少しでも内科健診を受ける意義があると思われる方には積極的に総合診療での内科受診をすすめた。また代々所長によって受け継がれる島民サマリーに加え、専門医の先生に相談したい点に関しては別紙にて提示し、診療の御指導を頂いた。特にフォローアップカテの時期や服薬内容に関する御意見を頂いた。普段専門的な検査を受ける機会の少ない島民にとって、年一回の内科健診によって心疾患が初期の段階で発見されることも多い。今年度も精査が必要な方が認められ、とても有意義な健診であったと考えられる。当診療所では、任期が半年であり島民の経過を一人の医師で追うことが出来ないが、島民一人一人のサマリーを代々の医師が書き足しながら作成しており、今後もサマリーの日々の更新を続けることで、患者情報の正確な引き継ぎとフォローアップを行っていかねばならない。

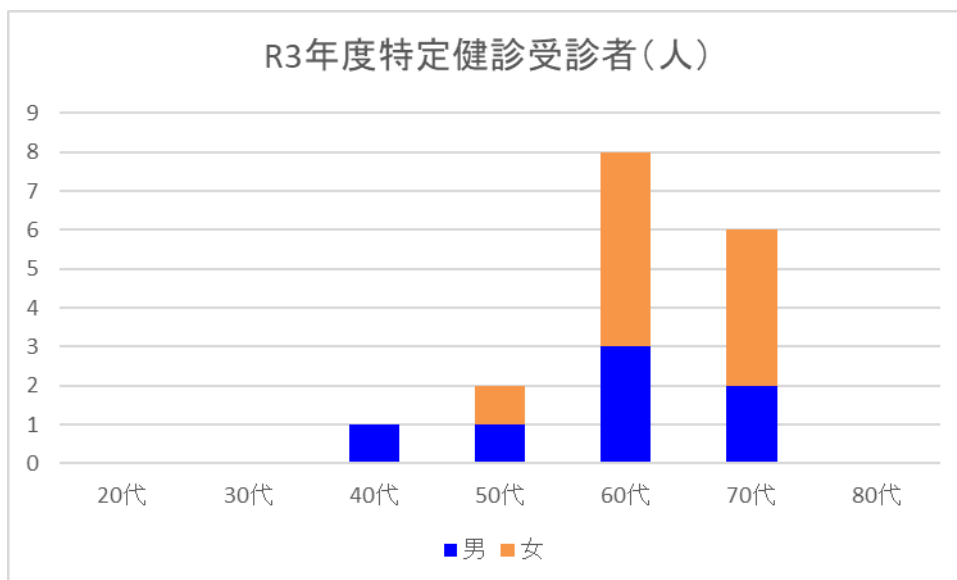
<耳鼻科>



今年度は一昨年度に比べ、受診者は5人減少した(令和元年度20人⇒令和3年度15人)。今年度は1日のみの開催であったが、患者の減少は25%にとどまった。例年通り女性の受診者の方が多かった。これは海女漁という舩倉島特有の背景を反映しており、海女は潜水による耳の問題をかかえていることが多い。これまでの総合診療報告書に、男性に関しても喫煙者が多く、喉頭癌のスクリーニングが必要なため受診を促す努力が必要という記載があり、今年度はこれを受けて健診前の島民への呼びかけを強く行った。喫煙者は喉頭癌のリスクがあるため、耳鼻科受診が必要という旨を伝えたことにより男性でも耳鼻科受診を希望される方が増えている。また、このようなよびかけにより、「のどがしみる」「のどの違和感」などの軽微な症状から早期に耳鼻科診察へつながる患者がいた。依然として喫煙者が多いため毎年の耳鼻科受診の呼びかけは継続が必要と思われる。

高齢化が進み、男女問わず難聴を訴える患者も増えてきており、耳鼻科検診の必要性は今後も高くなっていくだろう。今年度は1名に聴覚検査の依頼が出たが、検診スタッフの人手が足りず実施できなかった。聴覚障害のスクリーニングのために聴覚検査は重要である。来年度以降、待ち時間なく聴覚検査をできるよう、スタッフの増加が望まれる。また、待ち時間を減らすためにも受診時間をばらすため、2日間での開催が必要である。

<特定健診>



特定健診の受診者数は17名であり一昨年度の約半数であった。今年度は当日の医療・事務スタッフの派遣人数が大幅に減ることから、当日には特定健診は行わないことを周知した。6～8月の通常診療の時間に行うことを診療所だよりで周知し、事前に17名の受診があった。昨年度は舩倉島で総合診療がなく、島民の多くは特定健診を受けず丸2年間採血や身体計測されていない状態であった。男性の受診者で内臓脂肪型肥満が多く見つかった。

普段通院されていない島民にとっては、年に1回の特定健診は1次予防の機会として重要であるため、この機会を活用して頂きたいと思う。特定健診を機会に生活習慣を見直し、健康増進に努めていただきたい。今後も対象者全員の受診をめざし、島民台帳を参考に対象者への積極的な呼びかけを続けて頂きたい。

6. 各科診療内容

<内科>

前年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきている。H21年度から実施しているが、毎年大好評である。今年度の受診者は27名で、1日あたりの受診者は例年より多い。内科健診の需要は極めて高いと考えられる。受診希望の島民にはできるだけ事前に受診していただき、身長、体重、血圧測定（左右）を施行し、胸部レントゲン撮影と心電図記録を行った。問診票は前日までに1軒1軒配布し自宅での記載を呼びかけ、当日の受付がスムーズになるように準備を行った。日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。またサマリーに加え日常診療において特に相談したい点がある方に関しては紙カルテに付箋を貼り、御指導を頂いた。基礎疾患の有無に関わらず全例に心エコー検査を施行し、精査頂いた。また、下肢の血管評価を触診法とドップラー法で行っていただいた。

今年度も一昨年度までと同様に、事前に心電図をとりきれなかった方のための記録場所を内科診察とは別に設けた。当日の身体測定、血圧測定、心電図測定、レントゲン撮影は、レントゲン室で行った。一昨年度までと同様に当日に身長、体重、血圧測定を行うつもりで準備なく受診される方も複数おり、当日の待合室は混雑した。総合診療の1週間前に心電図の記録用紙が紙切れとなり、事前に心電図を測定できていない患者が3割ほどいたことも当日の混雑の原因と考える。

結果では、異常所見として弁膜症、心肥大、不整脈、慢性心不全の増悪などが挙げられる。精査のため病院受診となった患者もいる。不整脈のある方の今後の薬物治療の方針や弁置換術後の方やカテーテル治療を受けた方の治療後のフォローアップなど、専門的視点から治療方針の御指導を頂いた。

<耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和 58 年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舢倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤーズ（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーズの進行は止まっているとの事で、島の海女にとって必要不可欠なものとなっている。また耳鼻科健診は喉頭癌検診もかねており、島民の喫煙量は多く、高齢化も進んでいることから、年一回の受診の機会は非常に重要と考えられる。今年度は事前の呼びかけにより、男性の方にも多く受診頂いた。しかし、喫煙量が多いにも関わらず、受診されていない方がまだまだ多いのも事実である。そもそも島民には耳鼻科は耳と鼻という認識があるように思われ、喉頭癌検診でもあることを、今後周知させていくことで、受診率が高まると考えられる。そのためには、診療所だよりなどで耳鼻科という表記ではなく、耳鼻咽喉科という表記にするのが良いかもしれない。また、笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係がみられた。事前の調査では小森医師が来られるから受診するという声もあり、小森医師が健診に来て下さることの島民にとっての重要性が専門的医療を超えたところでも伺えた。

15 名の受診者で異常所見の内容は外耳道炎、難聴、舌扁桃腺炎、耳垢などであった。普段はふれる機会の少ない専門的な視点から今後の治療方針の御指導をして頂いた。また、今年度はオーディオメーターによる聴力検査が必要な患者が 1 名いたが、スタッフの不足による待ち時間超過のため実施できなかった。

高齢者や喫煙者はもちろんのこと、島には若い海女もおり、今後は若い世代への健診受診も促し、将来のために、耳栓の使用方法や、有症状時の対応の仕方などを聞く機会としても健診の場を活用して頂くことが、健診をより有意義なものとするために重要であると考えられた。

<特定健診>

今年度は総合診療に先立ち 6~8 月の診療時間に輪島市の特定健診を行った。

対象者は国民健康保険加入の 40~74 歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、尿検査、血液検査、心電図測定（希望者）、保健指導（栄養指導）である。75 歳以上の方には後期高齢者健診として同じ項目を行った。

受診者は女性 10 名、男性 7 名であった。昨年同様、特定健診の受診者には普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもおり、特定健診の意義は大きかったと考えられる。普段健康に心配のない方でも特定健診だけは受診するという方も少なからずみられた。島民人口の減少、例年と受診日が異なることが、受診者が減った原因と考える。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため総合診療も特定健診も舢倉島では行わなかった。今年度も総合診療の中止の可能性がある中、患者様から特定健診だけでも実施してほしいと希望があり、市立輪島病院の向さんに協力、指導いただき 6~8 月の診療の中で行った。一昨年度までは特定健診に保健師、栄養士も参加いただき、当日に栄養指導を行っていた。来年度以降、総合診療の日に特定健診をできるようなスタッフがそろい、当日に生活指導を受けられるような環境へもどることを希望する。

特定健診の受診票は輪島の住所に届く島民も多く、早くから広報を行い持ってきてもらうように努めた。今後も、「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為には必ず持ってきてもらう。保険証とともに一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを一人一人に広報する必要がある。

7. 反省点

今年度は1日のみの日帰りでの開催だったため、スタッフでの反省会は行われなかった。以下は所長の私見であり、来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

① 受付・待合の問題点と対策

今年度は当日の朝、10時半に波止場で参加スタッフと区長で協議し、1日のみの開催に変更が決まった。その後、区長とともに診療時間変更の放送を依頼し、スタッフの先生と診療所の準備に取りかかった。診療開始は11時の予定だったが、開始前より受診者が殺到し、開始直後は案内で混乱が生じた。受付で対応できる人がおらず、受診方法を紙に書いて掲示していたが、番号札を取り忘れる人が複数見られた。特に内科と耳鼻科の両方を受診する人で、片方のみの番号札をとって待っている人がいた。やはり、受付・診察案内を担当するスタッフが必要であると思う。

当日の測定が必要な患者には、紙カルテに付箋を貼っておきすぐにわかるようにしていたが、診療開始直後は測定が必要な患者が多く、診察の順番が来たが心電図測定が間に合わず順番が前後することがあった。事前の身体測定、血圧測定、心電図測定、胸部レントゲン撮影はどれも当日のスムーズな運営のために準備すべきだが、時間のかかる血圧測定と心電図測定はとりわけ事前に行っておくのが望ましいと感じた。

今年度は1日のみの開催となり、内科、耳鼻科とも昼休憩の時間をとることができないほど多くの受診者が殺到した。特に内科は待ち時間が長くなり、3時間ほどロビーで診察待ちをしている者もいた。仕方がない部分もあるが、工夫が必要だと思った。診療所内では必ずマスクを着用するように受診者の方にお話し皆さん守ってくださった。

今年度は耳鼻科と内科の2科のみ行ったため、紙カルテファイルについての混乱は見られなかった。ファイルに番号札を挟んだまま回収箱に入れてもらい、手違いなく回収して頂いた。

② 設備上の問題と対策

機器の使用（耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用）が重なるとブレーカーが飛ぶ危険がある事がH24年度より判明している。今年度は採血がないため遠心分離機の使用がなく、電気容量は気にせず診療にあたった。

なお、今年度も小森医師に細いファイバーをご持参頂いたため、より受診者に負担の少ない診療が可能となった。以前より使用している耳鼻科用椅子は使用可能な程度ではあるものの安定性・機能性が年々低下している。機会があれば新しい椅子の導入を検討してもよいかもしれない。

内科に関しては、エコー用のカラープリンターの必要性が指摘されていたが今年も用意ができなかったため、画面上はカラーで評価し白黒プリンターで印刷を行った。エコー本体については2020-21年冬にprosound α7が舩倉診療所に導入されている。10年以上前の機種であり対応するカラープリンターをレンタルで対応する予定だったが、届かなかった。来年度以降、物品を借りる場合は早めに届けてもらい使用方法を自分で確認しておくのが望ましい。また来年度も、prosound α7に接続できるカラープリンターの調達は困難であろうから、エコー本体ごとレンタルすることになると思う。事前に部屋の配置やエコーの操作方法についてよく練習しておいたほうがよいかもしれない。

内科診察室にはレントゲン画像を閲覧する用のモニターが1台ある。その横にカルテ閲覧用のノートパソコンとモニターが並んでいる。総合診療当日はカルテを閲覧することはないため、レントゲン用のモニターを中央に持ってくるなど使いやすい配置にするべきだった。また、レントゲン画像閲覧の操作手順について、説明を書いておくべきだったと思った。

今年度は新型コロナウイルス流行下での総合診療であり、感染対策を十分に行った。島民のほとんどは6月に2回のワクチン接種を終了しており、健診スタッフの3名もワクチン接種を終えている。診療所の入り口にはマスクと手指衛生用のアルコールを設置し、受診者にはポスターと声かけでマスクの着用とア

ルコール消毒をお願いした。待合室は換気を行い、廊下や保育室などに距離を置いて休憩用の椅子を設置した。

体重計、身長計は問題なく使用できた。コンピュータ室（耳鼻科の診察室）の屋根が雨漏りで腐食していること、1階の男性用トイレのウォシュレットが使用できないことが判明し、市立輪島病院に報告を行った。

③ 参加人数に関する問題と対策

今年度検診スタッフが3名であり、例年に比べて大変少なかった。診療開始直後から午後1時までは、受診者数が大変多く待合室も混雑した。例年、1日目の午前が一番混雑するため、今年度も1日目午後や2日目の受診を呼び掛けていたが、天候不順により1日だけの開催となり診療開始直後に受診者が集中してしまった。例年同様2日間の開催であれば、混雑時間を減らすことは可能だったと思う。2日間での総合診療が望ましい。

円滑な運営には例年通り20名前後のスタッフが必要と思う。今年度は新型コロナウイルスの流行のため、3名という極めて少数での運営となってしまった。通常診療、新型コロナウイルス感染症で大変忙しい中、参加してくださった先生方、準備に尽力いただいた県庁職員の方には大変感謝している。

④ 特定健診・内科健診について

内科健診について、今年度もすべての書類に日付記入欄を設けたため、以前の書類との混乱は見られなかった。検診前にこれまでの心電図を紙カルテや電子カルテから探し、比較できるようにファイルに挟んでおいた。過去の所見を見比べられるように数年分の所見票を見やすくファイルに挟んでおいた。内科検診ファイルには島民サマリーも挟んでいたが、循環器関連の治療経過がすぐに見つかるようにマーカーを引くなどの工夫をすれば、診察がよりスムーズになると思った。

特定健診は事前に行っていたため、内科健診との混乱は見られなかった。毎月の広報で繰り返し呼びかけを行うことで希望者には問題なく行えた。一昨年度までは特定健診に保険証の提示が必要だったが、不要であることを輪島市に確認し受診票のみで特定健診を行った。

⑤ プライバシーについて

今年度も例年通りプライバシーの保護のための保護カーテンを使用して内科診察室の入り口に設置した。また、心電図検査を行うレントゲン室の入り口にも保護カーテンを設置した。今後もプライバシーの保護には務めるべきであり、写真をみて今年度の区切り方を参考に来年度に活かして頂きたい。

8. まとめ

今年度で舳倉島総合診療は39回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舳倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舳倉島住民の人口構成を見ると、65歳以上が約75%、75歳以上の後期高齢者が約40%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見が重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導、大腸癌検診、前立腺癌検診に関しては、これからの島を支える若年者・中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舳倉診療所長に課せられた命題と考える。

9. 謝辞

今年度も無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。新型コロナウイルス感染症が流行する中、参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今年度は、船の欠航があり1日のみの日帰りとなりましたが、快く診療して頂き誠に有難うございます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても充実した時間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝を申し上げます。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えを下さいますようお願い申し上げます。

舢倉診療所長 吉田 弥生

令和元年度診療スタッフ集合写真（R3.8.7 出航前の希海（のぞみ）前にて）

